

## 講 義 等 の 内 容 ( 博 士 前 期 課 程 )

授 業 科 目 名 ( 担 当 者 名 )	講 義 等 の 内 容
演習 I 特別演習 I ( 麻 生 隆 史 )	近年、情報技術が様々な分野で普及している中、その基礎理論をアナログとデジタルを比較することにより学ぶ。その際、デジタル信号処理の基本的な概念を中心に、具体例を挙げて説明し、さらに情報機器を使用して実践的にシミュレーションを行う。また、研究を進めるにあたっての必要な文献調査の方法や論文の読み方を指導する。
演習 I 特別演習 I ( 丑 山 優 )	現代の企業経営は、企業を取り巻く環境変化に常に対応することを求められてきている。他方企業に求められている社会的位置づけも十分に経営者が認識して経営を行っていかねなければならない。こうした事柄を、必要な文献・資料等を通して、より深くボウリングすることのために少人数の演習がある。修士論文のための課題設定、分析方法を指導する。
演習 I 特別演習 I ( 大 浦 洋 子 )	微分方程式の理論的なモデル化、解析、予測、制御、可視化などの理論および問題解決の手法について研究する。差分・有限要素・境界要素などの離散化による連続システムから離散システムへの移行に関する手法や問題点の把握を踏まえ、具体的なコンピュータ言語によるコンピュータシミュレーションを実行する。また、すでに提案・利用されている情報システムの現状把握や性能評価を調査研究する。
演習 I 特別演習 I ( 甘 長 青 )	共産党一党支配の中国では、政治や経済、社会などの面において、さまざまな歪みを内包しながら、30年以上も高い経済成長率を維持してきている。他方、日本は、世界最高水準の技術を持ちながらも、超高齢化や超財政難など「超」が付く数多くの難題に苦しんでいる。日本にとって、「失われた30年」を避けられるかどうかは新興諸国、とりわけ最大の貿易相手・中国の成長力を上手く取り込めるかどうかにかかっていると見てよい。 この演習では、日中両国の経済問題を中心に、中国の行方と日本の将来を探りたい。
演習 I 特別演習 I ( 岸 川 洋 )	ソフトウェアの需要は増大し、システムもより大規模、複雑になっている。システム構築のために多くのプロジェクトが構成され、プロジェクトマネジメントの重要性はますます高まっている。本演習では、単純なシステムを構築しながらプロジェクトマネジメントに必要な知識を修得していく。
演習 I 特別演習 I ( 木 下 勝 一 )	会計監査の仕組みは、独立の監査人が、企業の経営者により作成された財務諸表が適正に表示されているか否かについて監査を行い、その結果を財務諸表の利用者に報告するというものである。演習 I では、この仕組みを細部までしっかりと理解し、この仕組みのなかで、現在、どこが理論的・制度的・実務的に問題となり、どのように解決されようとしているのかを考察する。
演習 I 特別演習 I ( 倉 地 和 敏 )	租税は国民生活の基盤を支える重要なものであり、日本国憲法をはじめ各租税法等においてその義務と手続きについて定められている。 日本国における税制について、現行法の状況、立法趣旨、判例・学説の動向を研究する。 研究を通じて、現行の税法の問題点、課題等を検討し、解決策を模索する。
演習 I 特別演習 I ( 車 炳 玟 )	演習 I では、最近インターネット技術の進歩やパソコンおよびデジタルカメラの普及により多くの分野において情報発信手段として用いられているカラー画像の処理技術、つまりデジタル画像処理の基盤技術およびその最新研究動向を把握するのを目的とする。また、MATLAB による画像情報処理の基礎的な関数について演習を行う。

授 業 科 目 名 (担当者名)	講 義 等 の 内 容
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (津守常弘)	「会計基準の国際的統一化」と「財務会計概念フレームワーク」の設定とによって生み出される現代の新しい会計制度のきわめて重要な特徴は、会計政策決定の制度的枠組みを強化することによって政策決定における恣意性を排除することであり、いいかえれば会計的意思決定のソフト面の制度化、会計システムのソフト面のハード化にはかならない。「演習Ⅰ」では、最新の会計基準のもとでマイクロ会計政策の決定者（経営者）の視点から、政策決定上どのような制度的制約と主体的可能性が与えられているかを、具体的事例を用いて研究する。
演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (丹羽崇之)	演習Ⅰでは、重要判例の検討を行う。各判決（決定）について、第一審からの全文を読み込んだ上で、事実、争点に対する当事者の主張、それに対する裁判所の判断、判決（決定）の意義及び課題について討論、研究することにより、法的思考力、紛争処理能力を涵養する。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (麻生隆史)	情報技術を駆使して実際に利用されているソフトウェア・ハードウェアを調査し、プログラミング技術やハードウェアの開発プロセスを学び、それをどのような手法を用いて応用するかを指導する。特にソフトコンピューティングの基礎については詳細に説明する。同時に文献調査や英文論文読解も行う。また、情報科学の分野における論文作成手法を指導する。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (丑山優)	演習Ⅰおよび特別演習Ⅰにおいて各自設定した課題について、修士論文作成への具体的アプローチについての指導を行う。その際に基礎的および基本的文献の網羅・整理・内容の正確な把握を行う。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (大浦洋子)	社会・自然現象に関する理論的なモデル化、解析、予測、制御、可視化などの理論および問題解決の手法、社会と情報システムの関連性についても研究する。具体的なコンピュータ言語による情報システムの構築や、すでに提案・利用されている情報システムの現状把握や性能評価を通して、より高度な情報システムのあり方や社会のニーズについて研究する。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (甘長青)	演習Ⅱは演習Ⅰの研究課題を継続する。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (岸川洋)	演習Ⅰを踏まえ、システム開発で陥りやすい失敗について学修し、プロジェクトマネジメントのあり方について考察を進める。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (木下勝一)	演習Ⅱでは、会計監査の社会的役割について研究する。近年、国内外で続出している会計不正の具体的事例をみながら、証券市場における情報開示のインフラストラクチャー、また、株式会社のコーポレート・ガバナンスへの貢献といった会計監査の役割を詳細に検討する。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (倉地和敏)	演習Ⅰ及び特別演習Ⅰで学習した内容について、さらに詳細な検討を加えていく。 特に、判例の動向、税制改正の状況などを見極めながら、現実に則した研究が行われるように配慮していく。 研究結果を論文等にまとめる能力を向上し、充実した内容と整った形式を備えた論文の作成を目指す。

授 業 科 目 名 (担当者名)	講 義 等 の 内 容
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (車柄圀)	演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き人間の色覚情報に基づいたデジタル画像処理に関する演習を行う。具体的には、画像の特徴抽出及び領域分割、色変換などの諸手法について MATLAB を用いて演習を行い、色覚バリアフリー社会の実現に向けた高汎用性の新しい手法の提案を試みる。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (津守常弘)	「演習Ⅰ」がマイクロ会計政策の決定者（経営者）の視点からのアプローチであるのに対し、「演習Ⅱ」では、会計情報の利用者の視点、ことに外部利用者の視点からの研究を行う。ここでは、経営分析の手法を用いて、投資決定上、ならびに経営管理上の意思決定と会計情報との関連について追究する。
演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (丹羽崇之)	演習Ⅱでは、優れた学術論文を講読、討論することにより、研究能力を向上させる。また、それぞれが選択した課題について研究を深め、修士論文に結実させる。